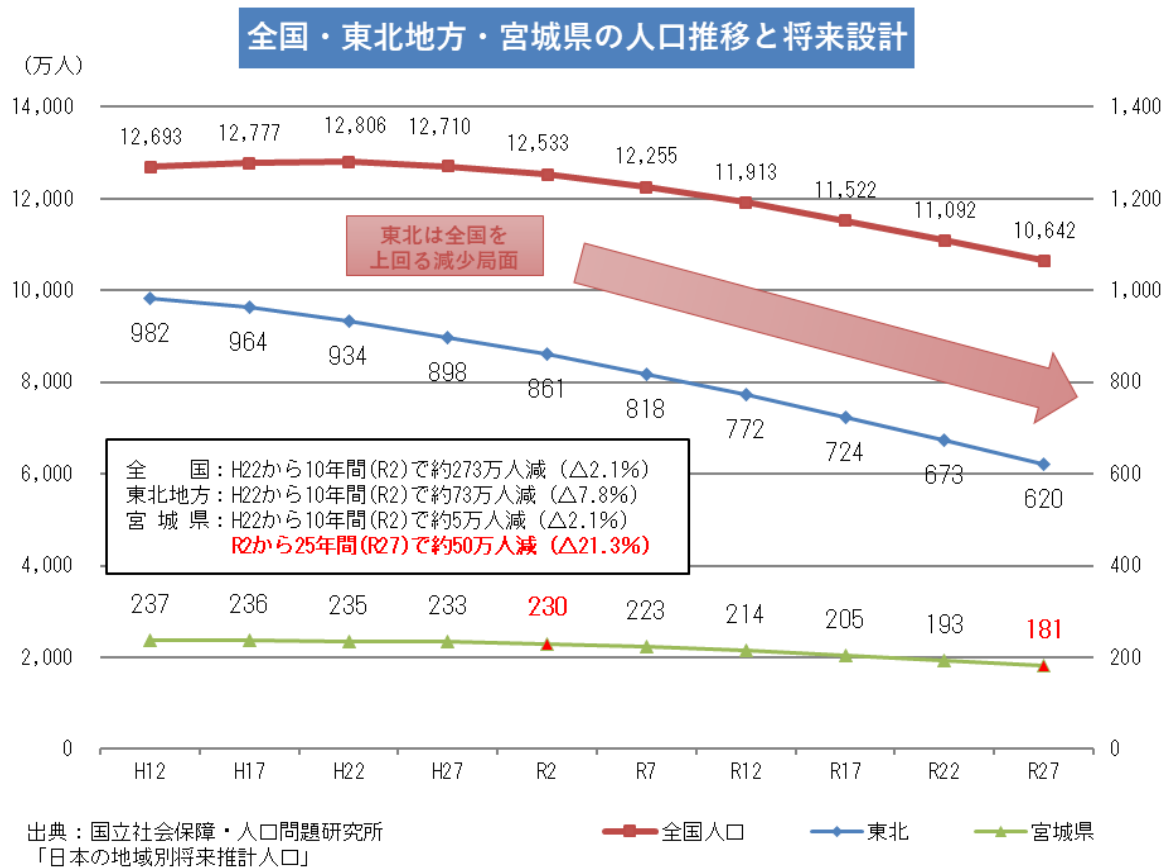


宮城県の観光の現状

みやぎ観光振興会議

観光を取り巻く状況 ～人口の減少・高齢化の本格化～

- 宮城県の人口は、令和2年から25年間で約50万人の減少（ $\Delta 21.3\%$ ）
- 急激な人口減少・少子高齢化に伴う労働人口の減少や消費の縮小等による経済活動の規模縮小の懸念



宮城県のこれまでの観光の取り組み

- 宮城県は「宮城の将来ビジョン」を策定し、「富県共創！活力とやすらぎの邦づくり」を基本理念として県政を推進する中で、観光の果たす役割が極めて重要であるという認識に立って、平成18年12月に「みやぎ観光戦略プラン」、平成23年3月には「第2期みやぎ観光戦略プラン」を策定した。
- その後に発生した東日本大震災により、「宮城県震災復興計画」を策定し、その中で復興のポイントの一つに「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」を掲げており、平成26年3月に「第3期みやぎ観光戦略プラン」を策定し、観光の復興に向けた取組を推進してきたところである。

みやぎ観光戦略プランによる取組

第1期	第2期	第3期	第4期
平成19年度から 22年度	平成23年度から 25年度	平成26年度から 29年度	平成30年度から 令和2年度
「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して	地域が潤う、住んでよしの訪れてよしの感動の「観光王国みやぎ」の実現を目指して	みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ	観光の再生から未来につながる新たなステージへ
<u>3つの戦略プロジェクト</u>	<u>5つの戦略プロジェクト</u>	<u>5つの取組の方向性</u>	<u>4つの戦略プロジェクト</u>
1 みやぎの魅力創出プロジェクト 2 みやぎの情報発信・誘客プロジェクト 3 みやぎの連携・組織づくりプロジェクト	1 みやぎの魅力向上プロジェクト 2 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト 3 インバウンド強化プロジェクト 4 関東以西からの誘客強化プロジェクト 5 アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト	1 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客 2 外国人観光客の回復 3 LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実 4 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化 5 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充	1 東北が一体となった広域観光の充実と誘客プロモーション 2 観光産業の連携強化と成長促進 3 外国人観光客の誘客加速化 4 沿岸部のにぎわい創出

平成二十三年三月 みやぎ観光創造県民条例の制定

第4期みやぎ観光戦略プラン

計画の位置づけ

- ・「宮城の将来ビジョン」及び「宮城県震災復興計画」の分野別計画
- ・「みやぎ観光創造県民条例」に定める観光振興に関する基本計画(行動計画)

計画期間

平成30年度から令和2年度まで

みやぎの観光の現状と課題

- 沿岸部の観光客の回復の遅れ
- 東北地方の外国人宿泊者の伸び悩み
- 東北地方の国内観光旅行者の回復の遅れ
- 観光消費額の低迷

計画の基本理念

観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ

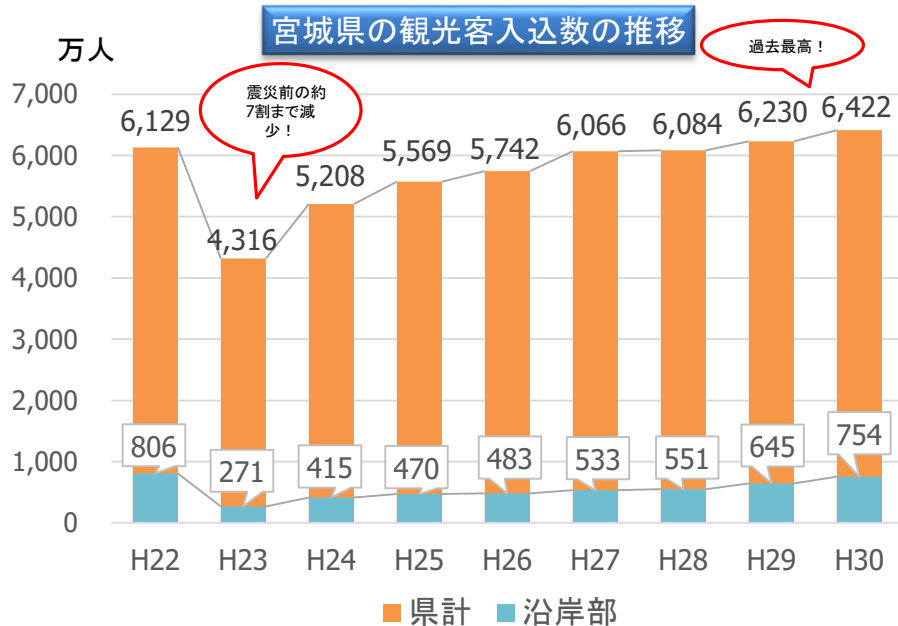
数値目標	基準値 (平成28年)	実績値 (平成30年)	最新値 (令和元年)	目標値 (令和2年)
観光客入込数	6,084万人	6,422万人	集計中	7,000万人
うち沿岸部(石巻・気仙沼地域)の観光客入込数	552万人	754万人	集計中	805万人
宿泊観光客数	922万人泊	941万人泊	集計中	1,000万人泊
うち沿岸部(石巻・気仙沼地域)の宿泊観光客数	67万人泊	76万人泊	集計中	75万人泊
外国人観光客宿泊者数	17.5万人泊	36.4万人泊	51.2万人泊	50万人泊
観光消費額	3,044億円	3,879億円	集計中	4,000億円

※ 令和元年の集計中の項目は、7月頃公表予定

観光の現状①

～宮城県の観光客入込数・宿泊観光客数～

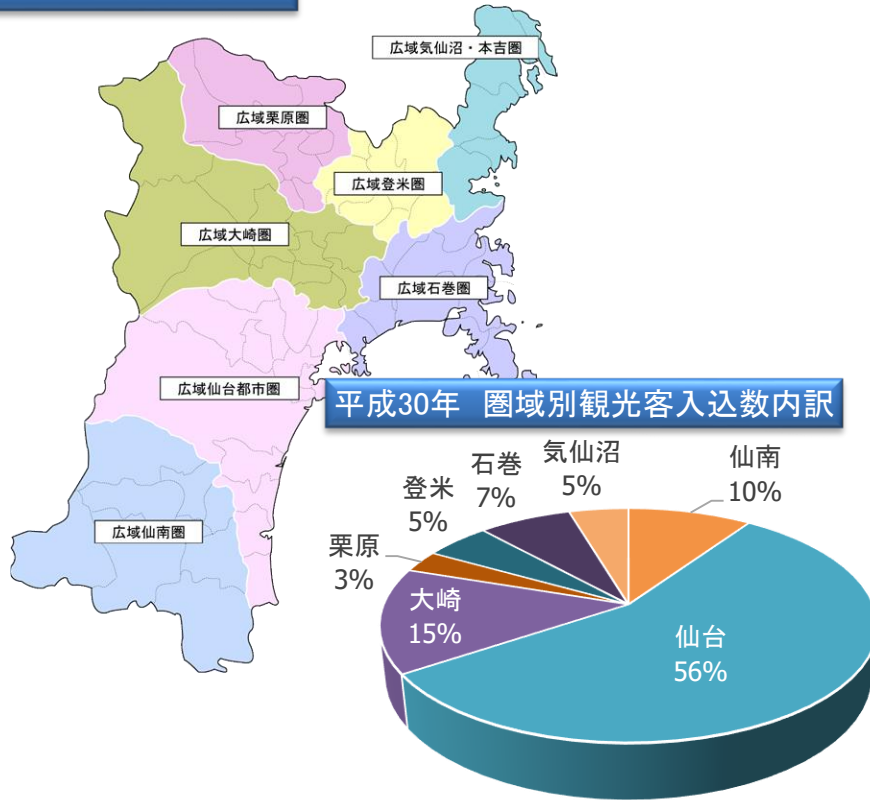
- 宮城県の観光客入込数は、東日本大震災で大きく減少し、震災前(平成22年)の約7割まで減少したが、平成30年は前年に引き続き震災前の水準を超え、過去最高を記録した。また、沿岸部(石巻圏域及び気仙沼圏域)では、東日本大震災により震災前(平成22年)の約3割まで減少したが、平成30年には約9割(93.6%)まで回復している。
- 宮城県の宿泊観光客数は、東日本大震災後も復興需要などにより増加の傾向にあり、平成30年は震災前(平成22年)と比較し、約2割(16.9%)の伸びとなっている。また、沿岸部(石巻圏域及び気仙沼圏域)では、東日本大震災により震災前(平成22年)の約3割まで減少したが、ほぼ震災前の水準に回復している。



観光の現状② ～圏域別観光客入込数・宿泊観光客数～

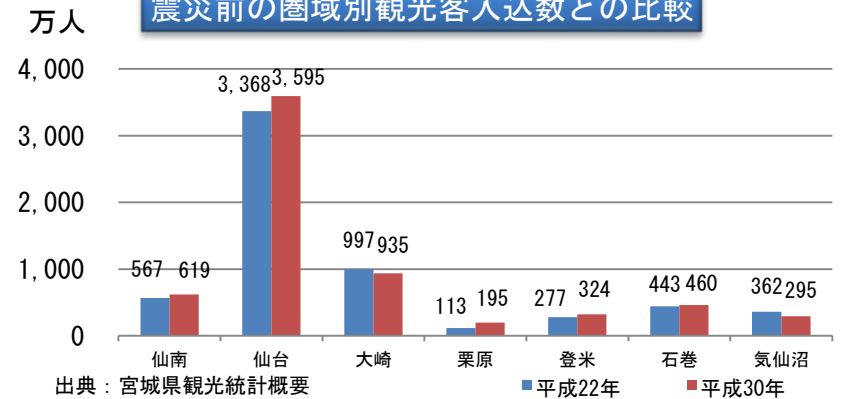
- 圏域別観光客入込数は、仙台圏域が56%と全体の約6割を占め、大崎圏域が15%，仙南圏域10%と続いている。また、震災前(平成22年)との比較では、沿岸部(石巻圏域及び気仙沼圏域)で約7%減少しているのに加え、大崎圏域が6%減少している。
- 圏域別宿泊観光客数は、震災前(平成22年)との比較では、沿岸部(石巻圏域及び気仙沼圏域)はほぼ震災前の水準に回復しているが、大崎圏域が約15%減少している。

宮城県の圏域図

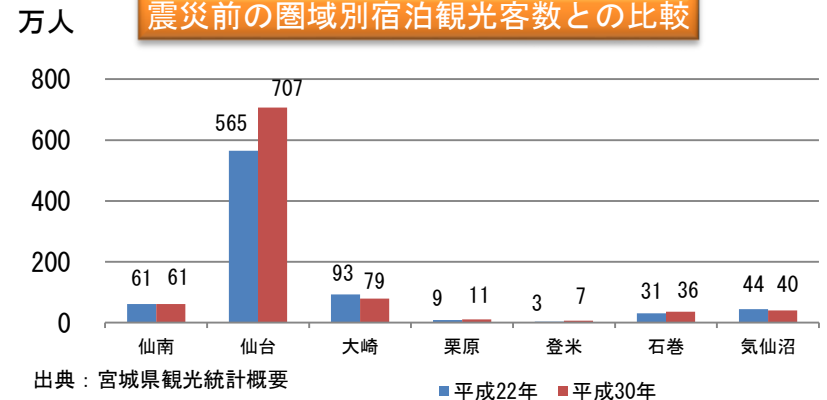


出典：宮城県観光統計概要

震災前の圏域別観光客入込数との比較



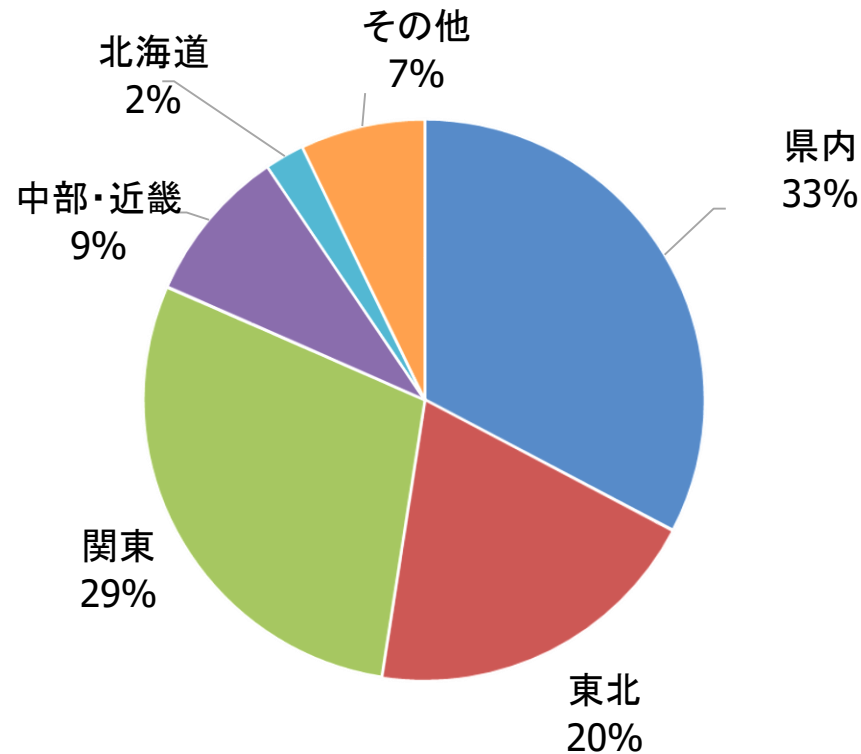
震災前の圏域別宿泊観光客数との比較



観光客の動向①(居住地別)

- 宿泊観光客を居住地別に見ると、県内と関東の割合が高く、それぞれ約3割程度
- 県内と東北を合わせると、東北の域内が5割を超える。

居住地別宿泊観光客数



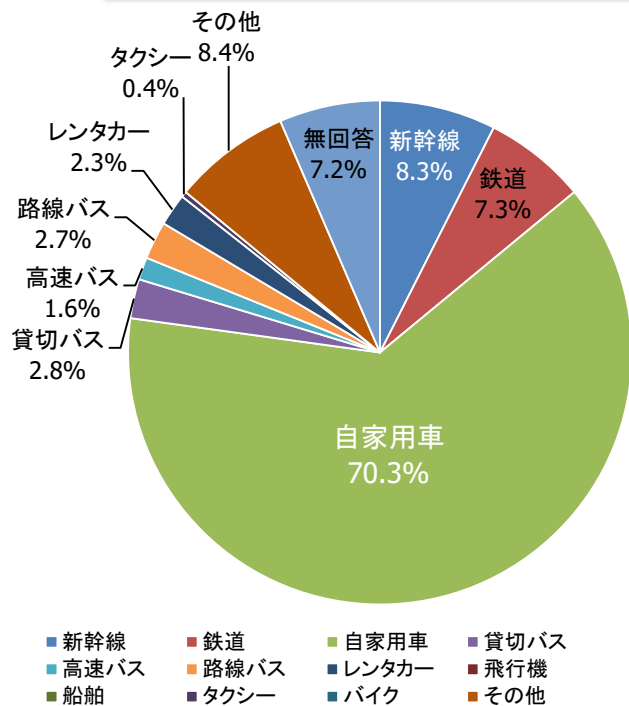
出典:宮城県観光統計概要

■ 県内 ■ 東北 ■ 関東 ■ 中部・近畿 ■ 北海道 ■ その他

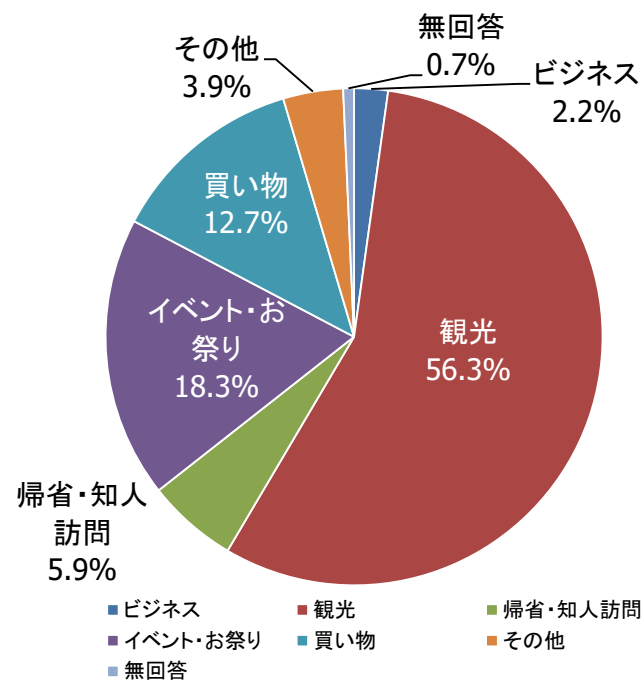
観光客の動向②(交通手段・来訪目的)

- 主な交通手段は自家用車が最も多く7割を占める。鉄道・新幹線は1割半程度
- 来訪目的は、観光が5割を超え、イベント・お祭りが約2割弱、買い物が約1割

主な交通手段(複数回答)



来訪目的



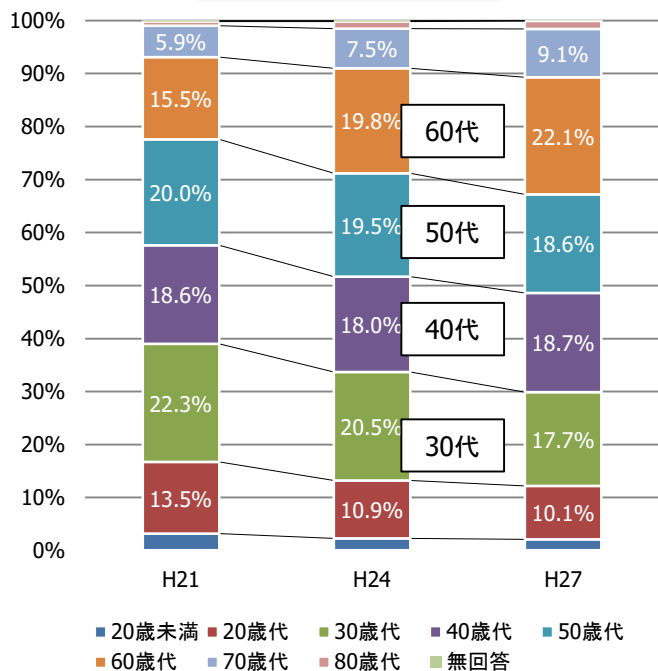
出典: 宮城県観光課調べ

出典: 宮城県観光課調べ

観光客の動向③(年代・同行者・人数)

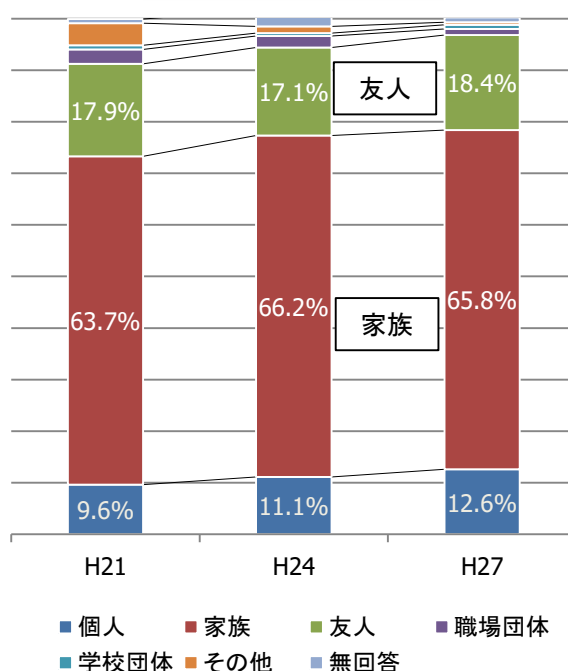
- 年代は、20歳代から60歳代まで幅広い方々が訪れている。平成27年は60歳代が増加した。
- 同行者の種類は、家族旅行が6割超を占める。
- 同行人数は、2人旅行が4割超、3人及び4～5人旅行が3割超を占める。

観光客の年代



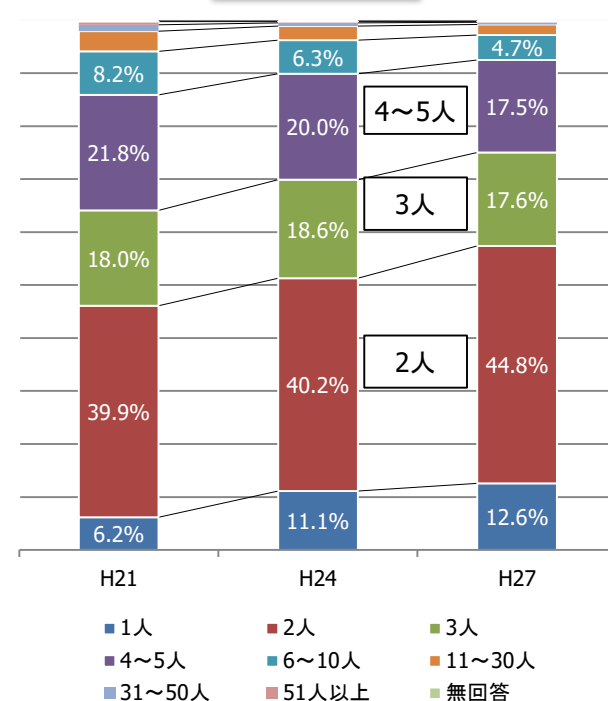
出典:宮城県観光課調べ

同行者の種類



出典:宮城県観光課調べ

同行人数



出典:宮城県観光課調べ

分類別主要観光地点観光客入込数

- 県内の主要観光地点を分類別に入込数順にまとめると、イベント・行催事は、1位SENDAI光のページェント236万人、2位仙台七夕まつり203万人
- 温泉は、1位秋保温泉(仙台市)112万人、2位鳴子温泉(大崎市)93万人
- 景観・名所・旧跡等は、1位松島海岸(松島町)305万人、2位竹駒神社(岩沼市)169万人

イベント・行催事

順位	名称	入込数
1位	SENDAI光のページェント(12月)	236万人
2位	仙台七夕まつり(8月)	203万人
3位	仙台・青葉まつり(5月)	90万人
4位	定禅寺ストリートジャズフェスティバル(9月)	72万人
5位	みちのくYOSAKOIまつり(10月)	45万人

温泉

順位	名称	入込数
1位	秋保温泉(仙台市)	112万人
2位	鳴子温泉(大崎市)	93万人
3位	遠刈田温泉(蔵王町)	67万人
4位	道の駅「上品の郷」ふたごの湯(石巻市)	29万人
5位	作並温泉(仙台市)	26万人

景観・名所・旧跡等

順位	名称	入込数
1位	松島海岸(松島町)	305万人
2位	竹駒神社(岩沼市)	169万人
3位	Koboパーク宮城(仙台市)(現楽天生命パーク宮城)	166万人
4位	宮城県総合運動公園	115万人
5位	鹽竈神社・志波彦神社(塩竈市)	111万人

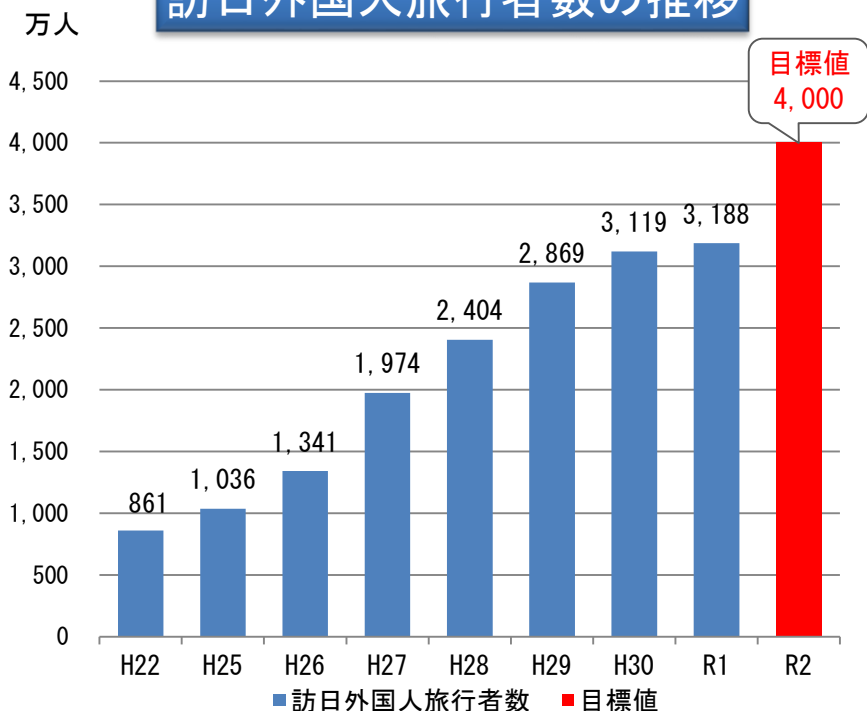
出典:平成30年 宮城県観光統計概要

インバウンドの現状①

～全国の訪日外国人旅行者数・内訳～

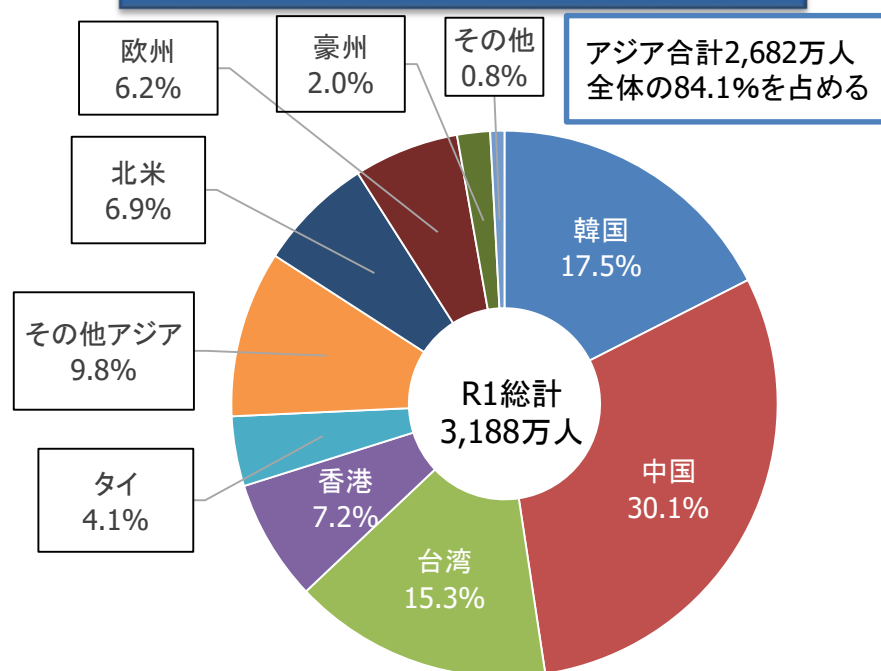
- 令和元年の訪日外国人旅行者数は、平成30年の3,119万人を更に上回る3,188万人(対前年比2.2%増)となり、過去最高を更新した。
- 訪日外国人旅行者を国籍別に見ると、中国・韓国・台湾などのアジア諸国が全体の84.1%となっており、北米が6.9%、欧州が6.2%と続いている。

訪日外国人旅行者数の推移



出典：日本政府観光局（JNTO）年別訪日外客数の推移

国籍別訪日外国人旅行者の内訳

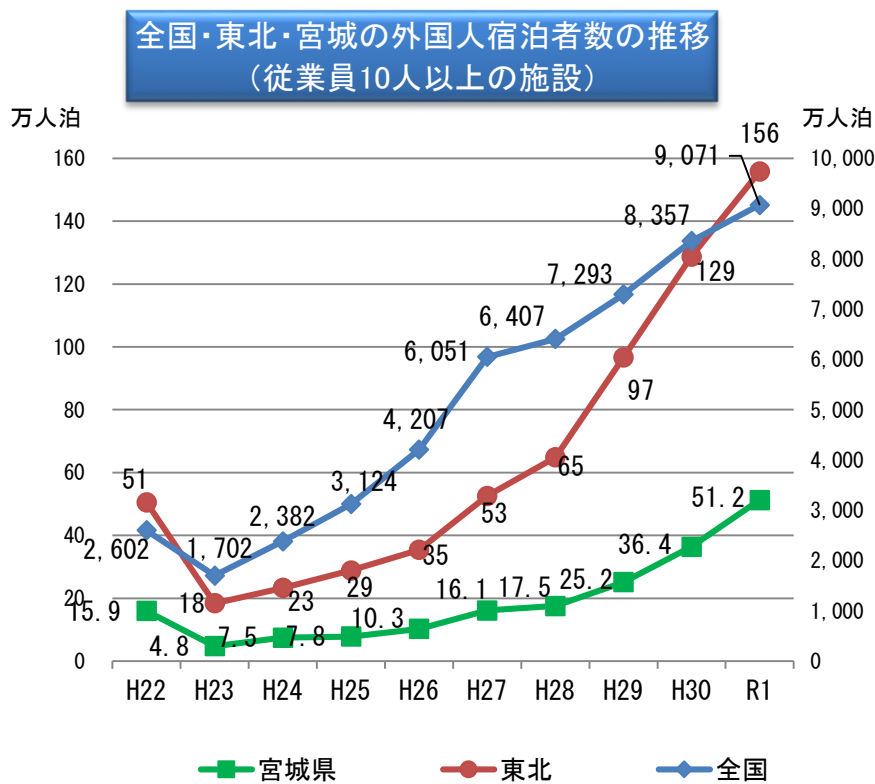


出典：日本政府観光局（JNTO）訪日外客数（2019年）

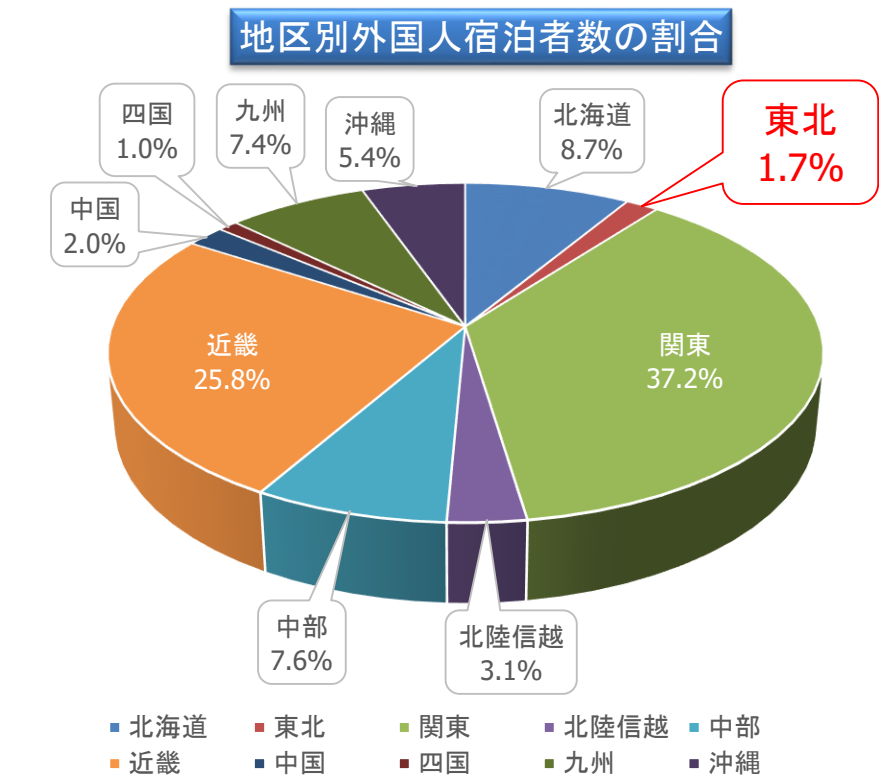
インバウンドの現状②

～東北地方の外国人宿泊者数～

■ 全国の令和元年の外国人宿泊者数(ビジネス目的含む。)は、約9,071万人(震災前比約3.5倍)と近年大きく伸びており、これに対して東北地方も約156万人(震災前比約3.1倍)と伸びているものの、全国の中では約1.7%の割合に留まっている。



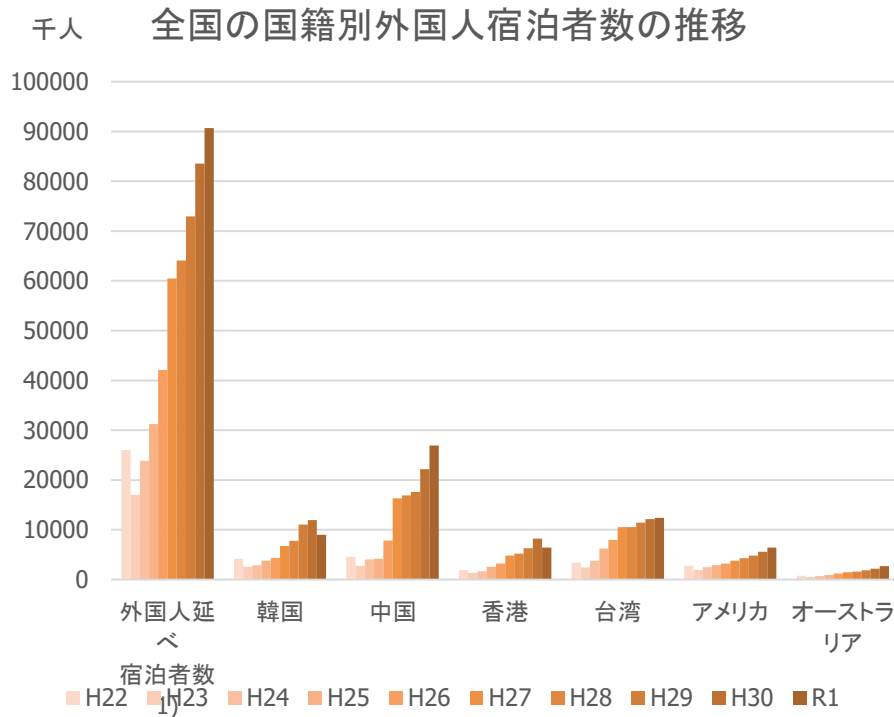
出典：観光庁 宿泊旅行統計調査



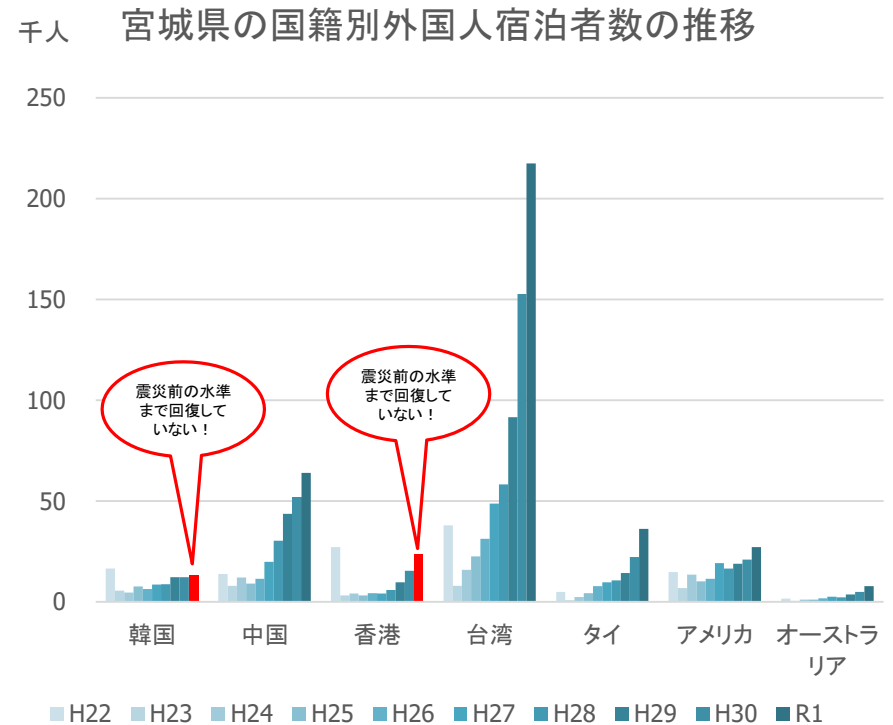
出典：観光庁 宿泊旅行統計調査 (令和元年)

インバウンドの現状③ ～全国・宮城の国籍別外国人宿泊者数の推移～

- 国籍別外国人宿泊者数を見ると、全国ではどの国も震災前を大きく上回り、順調に伸びているのに対して、宮城県では全体としては、順調に伸びているものの、韓国や香港などのように依然として震災前の数値に戻っていない国もある。
- 主な原因としては、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故による風評の払拭に至っていないことなどが考えられる。



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査